

東久邇宮記念賞の由来

昭和天皇の女嬪であられる東久邇宮盛厚殿下の発明哲学は「発明には上下の貴賤はない。小発明ほど尊い、ノーベル賞を百とするより、国民一人一人の小発明が大切だ。うまいミソ汁を考えた人には文化勲章を与えよ」である。したがって、我々の名誉総裁になってくれた。

実用新案、短縮法の時など「小発明軽視は国をあやうくする」と目の前で総理大臣に電話するほどだった。晩年、病にたおれられたとき、会長だった私を招いて、

「わが家の名と財産を使ってよいから、文化の発展につくした方に皇族賞を出して、顕彰してほしい」と。

この記念賞は、その遺言によって生まれたのである。したがって、名誉顧問には、総裁の夫人である東久邇宮佳子様が現在もなられて手づから授与されている。高松の宮賞、秩父の宮賞と共に三大宮様賞として親しまれている。

受賞された関東自動車株の、林田社長は

「私は勲章よりも感激は強く、マスコミも書きたててくれた。

長く家宝として、子孫の中から、よい人が出ることを願っている。」と語る。

また二大デパートをつくられた岡田吉郎社長も、世界一のリール会社を創立した大和精工の松井社長も、上野の芸術大学の齋藤仁事務局長も、三十周年記念式で、何千人の人と家族の前で、受賞された感激を、いまでも語りつがれている。

このように、この記念賞は本人だけでなく、子孫のものである。したがって現在まで受賞された人々をあげると、アンテナの発明者、八木秀次博士。ロケットの研究者、糸川英夫氏。

ノーベル賞のエザキダイオードの共同発明者、黒瀬ユリ子氏。を見出し、賞金つきで顕賞したので朝日や日経は「大衆ノーベル賞だ」と書きたてた。

日本チューインガム発明者、森 秋広社長。世界一マブチモーターの発明者、馬淵健一社長。

磁力バンドの発明者、田中正一社長。小物発明者、笹沼喜美代氏。奥野実憲氏。永森忠孝。等多数。

ユーモア発明の柳屋金五楼氏。江戸屋猫八氏。桂米丸氏。等タレント多数。

財界では澁沢秀雄氏。生産性本部長、郷司浩平氏。

トヨタ自動車社長、豊田喜一郎氏。週刊朝日編集長扇谷正蔵氏。

日刊工業新聞社長、白井十四雄氏。遠藤周作氏。

政界では、総理大臣三木武夫氏。竹下登氏。中曽根氏。東京都知事、青島幸男氏。各地市長、議長。

等々、有名無名の方々が受賞されている。

平成九年十一月には、発明ビル完成と、私の卒寿の祝賀会とき、多数の成功者が参加、「この賞を、もつと広めて、大小埋もれた善事に授けるようにしてほしい」と多額の寄附を受けた。

尚、記念賞の純金の指輪とバッジは当時、殿下使用のものと同じであり、それに、「賜、東久邇宮記念賞」と刻印してあるは、高貴な方に対する国民感情であり、殿下の指示でもある。

「以上が記念表賞状の裏面に記されてある、由来記である」



毎月、御臨席の東久邇宮盛厚殿下

近森精志

今回受賞者



平成九年十一月八日

社団法人発明学会 会長 豊沢豊雄 謹記

東久邇宮記念会

〒一六九一〇〇七三

東京都新宿区百人町 一一一〇一七

発明神社内

☎ 〇三―三三六〇―五六三六

平成十九年、豊沢百歳を記念して、文化勲章につぐ民間最高賞として、文化褒章を、殿下の名で授与しはじめた。